

## 平成 27 年度 第 2 回朝倉市総合教育会議 議事録

日時：平成 28 年 2 月 9 日（火） 10：00～10：50

場所：別館第 2 会議室

出席者：構成員 森田市長、宮崎教育長、小川教育委員、月俣教育委員、  
井手教育委員、内藤教育委員  
事務局 堀内総務部長、井上行政情報課長、  
本田男女共同参画推進・青少年係長、  
大山担当者  
教育部 前田教育部長、高良生涯学習課長、安部文化課長、  
塚本教育課参事、朝妻教育課参事補佐  
伊藤教育課総務係長  
傍聴者 0 名

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

### 3 議題

- (1) 次年度朝倉市教育施策要綱(案)について
- (2) 不登校対策について

事務局	<p>おはようございます。皆様、お揃いになりましたので、ただ今から、第2回朝倉市総合教育会議を始めます。</p> <p>本日の会議の資料は、まず、レジュメが1枚と、平成27年度第2回朝倉市総合教育会議の2点です。</p> <p>確認をお願いいたします。</p> <p>それでは、次第により進めさせていただきます。</p>
事務局	<p>朝倉市 森田市長 より、ごあいさつをお願いいたします。</p>
市長	<p>皆様、おはようございます。本日は、第2回の朝倉市総合教育会議を開催いたしましたところ、皆様お忙しい中にお集まりいただきましてありがとうございます。ここ数日寒い日が続いております。何かまた、温かくなって、来週は寒くなるということで、気候の変化が、温度の変化が激しくなるので、皆様方、体調には気をつけていただきたいと思います。本日は2つの議題について皆様方にご協議いただくわけですが、第2回目ということで、初めからということになろうかと思いますが、それぞれ最後まで、ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。簡単ではありますがあいさつに代えさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議題に入ります。</p> <p>これからは、朝倉市総合教育会議設置要領第3条第1項により森田市長に、議長として、進めていただきます。</p> <p>森田市長、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、次第「3 議題」にあります順に、協議を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>（1）の「次年度朝倉市教育施策要綱（案）について」を議題といたします。</p> <p>なお、「次年度朝倉市教育施策要綱」は、最終的に教育委員会において協議・決定されることになっておりますので、この会議は、決定の場ではないことを、ここで確認しておきます。</p> <p>「次年度朝倉市教育施策要綱（案）」につきましては、「学校教</p>

	<p>育」、「生涯学習・生涯スポーツ振興」並びに「文化振興」の3つの施策で構成されておりますので、それぞれ説明、質疑・協議等を行いたいと考えております。</p> <p>まず、「学校教育の施策」につきまして、教育課より説明をお願いします。</p>
教育課塚本参事	<p><b>資料</b> 平成27年度第2回 朝倉市総合教育会議資料 2-1 ~ 2-6 の説明</p> <p>以上学校教育につきましては、説明を終わります。</p>
市長	<p>「学校教育の施策」について、説明がありました。ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。なにかございませんか。</p> <p>よろしいですか。無いようであります。</p> <p>それでは次に、「生涯学習・生涯スポーツ振興の施策」につきまして、生涯学習課より説明をお願いします。</p>
生涯学習課長	<p><b>資料</b> 平成27年度第2回 朝倉市総合教育会議資料 3-1 ~ 3-6 の説明</p> <p>以上、生涯学習課が所管する部門の説明を終わります。</p>
市長	<p>「生涯学習・生涯スポーツ振興の施策」について、説明がありました。ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。質疑・協議等</p>
内藤委員	<p>ずっと考えていたのですけれども、高齢化の問題なのですから、おかげで美奈宜の杜がNHKで全国放送にでる。西日本新聞には大きくでるはで、(高齢化率)56%だったか、市全体では27%ですか、30%を超えている地区が結構ある。蜷城もそうだし。</p>
市長	<p>朝倉市の高齢化率は30%を超えている。</p>

<p>内藤委員</p>	<p>超えていましたか。失礼しました。 生涯学習と高齢者というのは、どうしても高齢者は福祉関係が強いと言うか、福祉部門が重点されるのだけれども、高齢者と生涯学習というのをもう少し結び付ける方法がもっとあってもいいんじゃないかな。この中で、高齢者というのが出てこないし、高齢者対策と言ってはおかしいのだが、生涯学習ですので、高齢者の方々のいい経験を利用しながら、地域を活性化させていけば、そういうのもあるし、そういう言葉も欲しいかな。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>高齢者の方の部分につきましては、やはり生きがいというところでありまして、元気な高齢者の方がたくさんいらっしゃいます。そういう方についてはお茶の間学習ネットワーク事業というのを市の方で制度を設けております。ここに講師の指導の登録をしていただく。ということにあたりましては、企業でのいろいろな経験ですとか、職業の経験を活かして指導者になっていただいて、その方々が各コミュニティセンターの中で、講師となって講義をしていただくということで、まあ、習う方よりも講師側で生きがいをもうけるとか、そういう話もありますので、そういう点が実際やっているところでありまして。それ以外についても、委員がおっしゃったことは非常に重要なところでありますので、具体的な事業の中でいろいろ検討していきたい。</p>
<p>市長</p>	<p>他にございませんか。 あの、今高齢者の話がでたので、スポーツの中にも高齢者の話が出てこない。例えば今度計画をしています総合的体育施設についても、高齢者に大いに活用できるようなものにしていくように私は思っている。この辺りも打ち出していいのではないかなと思うが。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>体育施設の部分につきましては、通常の競技スポーツはもちろんのこと、いかに健康づくりとか生きがいづくりだと思います。我々もずっと視察等に行きますと、やはり社会人が中心になっていきますので、6時以降がメインにはなるのですが、お昼</p>

	<p>に使用しているのが、高齢者の方が卓球を非常にやっている。だからあのゲートボールとかグラウンドゴルフとか屋外はあるのですが、屋内であれば、卓球というのが一つのキーワードになるのかなと思っています。ソフトの振興計画をつくる中ではそういうことを念頭に挙げながら作っていきたい。</p>
<p>市長</p>	<p>それと併せて、念頭に置きながら作っていただきたいと思うが、そういうものを、体育施設を建設するのにこういう機能もありますよということを、一般の市民に知ってもらえるように打ち出していくことも大事なことだろうと思う。</p> <p>そうすれば、体育館に対するイメージが私たちも使えるのだということになってくる。そこ辺りをもう少し表に出して、こういうものもありますよと打ち出していくべきじゃないかと私は考える。その辺りを検討して下さい。</p>
<p>井手委員</p>	<p>関連して、お茶の間学習にしろスポーツにしろそれをいかに広げていくかのところに具体性がないような気がする。その点をよろしく。</p>
<p>市長</p>	<p>他にございませんか。</p> <p>無いようでありますので、次に、「文化振興の施策」につきまして、文化課より説明をお願いします。</p>
<p>文化課長</p>	<p><b>資料</b> 平成27年度第2回 朝倉市総合教育会議資料 4-1 ~ 4-4 の説明</p>
<p>市長</p>	<p>「文化振興の施策」について、説明がありました。ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。</p> <p>ございませんか。</p>
<p>小川委員</p>	<p>4-4の文化ホール等の有効活用というところで、現在、自主文化事業協会というところでいろいろな催しを、ホールを利用して行っていると思います。これは素晴らしいことだと思うのですが、もっと小さいレベルといいますか、市民の若い人、5人、10人レベルで作っている会で、例えば音楽会を開きたいとか、講演会を開きたいとか、そういった催しをもっと使える</p>

	<p>ような仕組みがあるといいなと思う。今のところ、料金が正規の料金になりますと結構かかりますし、小さい今からやっこうとする団体にとっては厳しいことがあると思うので、自主文化協会さんで行われている、市民のための大きな事業はそれはそれでいいとは思いますが、それと並行して、小さい今からやっこうとする若い人たちが使いやすいような仕組みを何か作っていただけるといいなと思っている。</p> <p>それが大きな自主文化事業の参加率とかに繋がっていくと思いますので、ぜひ、そういった利用しやすい文化ホールに盛り込んでいただけたらと思います。お願いします。</p>
文化課長	<p>すぐやりましょうという事にはなりません、文化課で文化推進の事業をやっておりますので、文化課に相談をしていただいて、その上で共催をするとか後援をするとかになれば幾分かお安くなる制度もございます。提案していただけたらと思いますし、そういう広報活動もしていかなければいけないと思っています。</p>
小川委員	<p>ありがとうございます。ただ現実には共催という形は非常に厳しい問題がありまして、若い今からやっこうとする者にとってはハードルが高いと思う。いろいろな提出書類であったり条件であったりするので、そこらへんを緩めていただければ活動が盛り上がっていくと思いますので、よろしく願います。</p>
市長	<p>他にございませんか。</p> <p>せっかくですので、姉妹都市の高鍋との交流事業というのが出てきていますね。実は来年かな50周年というのは。</p>
総務部長	<p>再来年になると思います。</p>
市長	<p>その辺りを文化面だけでなく、市の方でも考えなくてはいけない。50周年ということで、何らかの形をした方がいいのではないか。もちろん高鍋町との話し合いの上ですけども、町長さんとも話し合いをしますけれども、そういうことも頭に入れておいてください。</p>

	<p>他にございませんか。</p> <p>「次年度朝倉市教育施策要綱（案）について」、本日出されました意見を、この後開催されます教育委員会において、ご検討いただきますようお願いいたします。</p> <p>以上で「次年度朝倉市教育施策要綱（案）について」の協議を終わります。</p>
市長	<p>次の議題にまいります。</p> <p>（２）「不登校対策について」を議題といたします。</p> <p>では、教育課より説明をお願いします。</p>
朝妻参事補佐	<p><b>資料</b> 平成27年度第2回 朝倉市総合教育会議資料 5-1～5-9 の説明</p>
市長	<p>「不登校対策について」について、説明がありました。ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。</p>
月俣委員	<p>資料の5-2にあるのですが、いじめの件数が小学校、中学校のグラフがあるのですが、これは小学校も中学校も毎月一回アンケートを子どもたちが記入していて、それがこちらの数字になっていると聞いています。私が思うのはいじめの認知件数は増えているのですが、小学校の時点でいじめを受けていた子が中学校に上がって継続していじめを受けていて、それが不登校につながっていくケースも無きにしもあらずだと思う。不登校になった生徒のいろんな家庭環境にもあると思うが、先ほど話にあった教育支援センターで学校には行けないけれども、こちらのステップで学習して、学校復帰できた子も同じ校区の子どもさんにもいらっした。一概にこの件数だけというより、中学校に上がった時に、中一ギャップや5月病がうまくかみ合っていないくて、一年生の内に学校に行けなくなるというのが多いと良く聞いたりするので、そこら辺も含めて、学校、保護者、家庭、子どもとそちらで取り組んでいくことが大事なのか</p>

なと思いました。

学校現場でも小規模校、大規模校が朝倉市の中にあるのですが中学校区で、先生方で多いから役割分担が少なくてすむ、小さいから役割が少ないとか、多いとかは関係ないとお聞きしました。小さいから担任もしなくてはいけない、部活もしなくちゃいけない。役割で不登校の対応をしなくちゃいけない。いくつもの機会の中で先生方は頑張っていると、保護者目線から言わせていただきました。

市長

他にございませんか。

小川委員

参事補佐から説明いただいたいろんな事業が功を奏して、26年よりかは27年の方が不登校の数が少なくなっている状況の説明がありましたけれども、これが、事業が打ち切りになるというか、補助がなくなって事業が出来なくなると、せっかく今までやってきたことが水の泡と言いますか、先に繋がらなくなるんじゃないかと思う。やはりこういったことは、打ち切りというか逆に増強していかなければならないと思う。やはり、学力とか体力というのは永遠のテーマでございまして、それを支える一番大事なところは不登校の解消と言いますか、完全解消は夢のようなことかもしれませんが、いじめ不登校を防止することが学力や体力の向上にもつながってまいりますので、ここはひとつ尻すぼみになるのではなくて、増強していただきたいと思えます。支援加配、いじめ不登校の特別の支援加配の方も実際に経験のある方を利用して、効果が出てきているということでございまして、やっぱり支援する方も一人では力が発揮しにくいと思う。グループと言いますか学校は学校で、校長先生をトップにして学校全員の力で対応しているということでございまして、それに加えて専門の知識をもった方がチームでサポートしていただかないと、解消していかないんじゃないかと思えます。特に今度「郷土を愛する」ということを文言に入れてありますので、不登校が減っていくということはそれだけ郷土を愛するということに繋がると思えますし、ぜひ、そこら辺は継続と言いますか逆に増強していただきたいと考えています。現状はどういった感じなのでしょうか。事業の補助とかの関係もございしますが。

<p>朝妻参事補佐</p>	<p>昨年度こういった科学的な見地からのアプローチを図りました。先ほどちょっと教育委員さんがおっしゃいました以前は不登校0というのは、当然の時代がありましたが、ここ20年30年は不登校の子がいることが当たり前になってきました。その不登校の要因と言いますのが複雑、多岐にわたっておりまして、教員の目線だけ、それから教育委員会の目線だけではなかなか解決できないようなケースもございます。そういった場合に、こういった科学的な先生、大学の先生とか病院の先生であるとか、もしくは心理カウンセラーであるとかの方々を活用していくということは不可欠な時代になっております。ということはお金もかかってくるのも現状であります。</p> <p>今年度の事業につきましては、予算額60万円の上限で文科省の方から預かることができまして、それを受けてかなり著名な大学の先生であるとか、この問題に長けた専門家の先生を何度か呼び出すことが出来た。保護者の方にも、そういった科学的な不登校問題というのを理解していただき、非常に良かったのではないかと考えています。</p> <p>それともう一つ、福岡県の方からこの事業に取り組むのであればということで、一名の加配を頂戴しております。27年度は。この先生が不登校問題を専門としまして、朝から夕方まで各学校の不登校傾向にある子どもたちへの対応、特に甘木中学校区が多かったものですが、そこを中心に立ち振る舞っていただいた経緯がある。というような配置をいただいております。</p> <p>次年度に関しましては、これに代わりまして、どうしようかというところですが、市の囑託にて、かなり経済的な保障が変わってきますが、なんとかその条件でお引き受けいただける先生を今探しているところです。ちなみに去年お願いしておりました先生は、他市郡に逃げられそうございまして、新しく先生を探さなくてはならないかなという状況でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>よろしいですか。他にございませんか。</p>
<p>内藤委員</p>	<p>今の件に関しまして、私は丁度10年前になるのだが、三井高校の不登校の指導員というのに指名されまして、ソーシャルワ</p>

一カーの走りみたいなものかな、その時にある先生とある子どもたちのところに交代で朝いちばんに生徒のところに行きました。僕らは送ることはできないので、そのお母さんが送ることになるのだが、何とか説得して結果的に半年くらいかかって、通信教育に行った。その時に痛感したのは、僕は一個人であって学校の先生ではない。個人の家に行くときに資格は何の資格で行くかというときに、校長先生から、結果的には県教育委員会からの指名が来たわけですがけれども、今の状況で社会教育の人たちが一生懸命に頑張り、モンスターペアレントに関してはいろいろ考えてあり、いいことだと思うのです。期待しておりますが、実際に踏み込んでいくのは今の時点では学校の先生しかいない。学校の先生の立場で行くしかないと思っている。

その時に一人の担当の方がいらっしゃると、全く違う効果が出るし、全く違うやり方があるし保護者に対しても説得ができるし、本来ならば、地域のおじさん等が入っていくのが一番いいかもしれないが、現状ではなかなか、田舎ですら入っていけないような難しい状況がどうしても続いて、僕は家庭教育をもっと進めていかないといけないと思うが、現状を見ると学校の先生がどうしても一人いるとずっと感じていることです。その辺りをみんなで考えていかないといけない。

市長

他には何かございませんか。

月俣委員

身近で、保護者の方の子どもさんが心療内科の方に通って、吉井の方にある病院まで通ってあるとお聞きしたことがある。不登校になってある子の保護者さんで、子どもさんと通院されてあるので、外部でそういったところまで診察に行くと、身近なところに心に繋がる、響くような相手の方がいらっしゃってやり取りができて、学校に復帰できるとなれば、それが一番いいのかと思う。その辺りをうまく加配ではないが一人いていただければ、現に統計で前年度より伸びていた数値が下がってきているということを含めて、加配が出来るならばお願いしたい。

小川委員

先ほどの繰り返しになるが、不登校の専任の加配の先生ですね、こういった方たちは、先ほど説明にもありましたが、前年

	<p>度の方はよそに行かれるということで、新しく探してあるということですが、すぐに来てくださいますと見つかるわけではないと思う。そのような力のある先生は。一般の教室で教えるのと違って、そういった心の問題を解決できる能力のある方で、早めに来年は2人3人とか方向性があれば現場の方も行動が起こしやすと思う。これは意見として言わせてもらいました。</p>
<p>塚本参事</p>	<p>今、お二人の委員が言われた通り、今回事業を受けさせていただいて、一番おおきかったと思われるのは、人の部分である。人がいる。実際子どもたちと関わったりとか保護者に関わったりする人が必要だとすることが良く分かりました。そこを何とか突破していかなければならない。と痛感したところです。もう一つは、先ほど月俣委員が言われたとおりの場所がある。子どもたちが来る場所。今回、朝妻参事補佐の説明の中にはあまり触れられていなかったが、ステップですね、適応指導教室の中で、保護者向けの講座の中で保護者にいろいろ考えていただくとか、保護者に集まっていたいて悩みを相談し合ったりとか、適応指導教室のなかで出来ました。人と場所を今後もなんとか維持、発展していかないといけないなと教育委員会としても今回事業を受けて思ったところがございます。</p>
<p>市長</p>	<p>他になにかございますか。</p> <p>以上で「不登校対策について」の協議を終わります。本日の議題が終わりました。以上で、議長としての進行を終わります。ご協力ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>次第「4 その他」です。事務局からは特にございません。</p> <p>来年度の会議は、7月頃と2月頃の2回の開催を予定しております。来年度、日程等の調整を行い、改めてお知らせしますのでよろしく願いいたします。</p> <p>これをもちまして、第2回総合教育会議を閉会いたします。</p>

--	--